

ボランティアの心

英語や日本語点字で社会貢献

私が点字に初めて出会ったのは、シルバーカレッジ（KSC）に入学し、国際コースの竹田恭子先生の授業で、英文字のアルファベットで自分の名前を手打ちしたときである。そのときから点字に興味を持ち、英語点字グループに入り、点訳ボランティアを始めた。ここでは、英語の小説を点訳し、東南アジアの英語圏の国々（ネパール、ブータン、ミャンマー、タイなど）の盲学校へ、点訳本を寄贈している。今までに点訳した本は、100冊を超えた。しかし、英語点字だけでは、日本の視覚障害者に対する貢献ができないので、KSCを卒業後、日本語点字を習得し、現在「点訳ボランティア連絡会」の中の一つのグループで、日本語点訳のボランティア活動を行っている。

日本の視覚障害者数は、平成18年の統計では約31万人、そのうち、全盲者は約3割弱である。したがって、「視覚障害者の多くは、僅かであるとしても眼から、形状や色彩の情報を、得ることが



できる。」ということを認識して欲しい。たとえ点字を知らなくても、街で出会う白杖（はくじょう）を持った視力障害者への手助けは、いろいろな手段で可能であり、また、そのサポートを待っている人は多い。

たとえば、電車に乗っている視力障害者の人たちは、席が空いているかどうかわからない場合が多い。自分の目の前の席が空いていても気がつかないことがある。そんなときは、「この席は空いていますよ。」と声を

かけてあげてほしい。

また、点字ブロックの上に、違法駐輪の自転車などが放置され、点字ブロックに誘導されて歩いている視力障害者が立ち往生している姿を、ときどき眼にする。中には、自転車列の中に突っ込み身動きできない人もいる。このような状況になると、方向感覚が狂ってしまい、誰かの手助けを必要とする。そういうときは、是非、声をかけて手を差し伸べて欲しい。（今田紘 国際12期・須磨区会）写真＝ミャンマーの僧院で点字本を読む少女

グループ わ が臨時総会

グループわの臨時総会が8月2日、カレッジ学習室で開かれ林哲司氏（生11）の除名問題を審議。採決の結果、賛成多数で林会員の除名が正式に決まりました。総会には45人が出席。今田紘氏（国12）を議長に選出したあと、委任状を含め総会成立の定足数（599）を満たしているとの報告があり、執行部から出された除名議案について議事を開始。おもな除名理由は メールによる攻撃 第三者への脅し行為 自分勝手な県への申し立て、などによるグループ わ に対する名誉棄損となっています。

「いきなり除名は厳しいのではないかな」などの意見がだされましたが、執行部から「わの規約上、処分は除名1種類しかない」との説明がありました。林会員からは、総会手続きや運営について異議あり、の発言がありました。約2時間の審議の末、議長が採決を宣し、開票の結果は、委任状を含めた賛成813票、否認10票となりました（委任状812・出席45計857票のうち、棄権・無効・退席が計34）。

今臨時総会は、定期総会（5月19日）での「緊急除名動議は、NPO法に則っていない」と県から指摘を受け、あらためて会員の意思確認をしたものです。

10月30日に文化の祭典

18団体がパフォーマンス披露

地域とのつながりをもっと深めよう——グループわ は10月30日（日）、第2回「地域交流と文化の祭典」をシルバーカレッジ（ホール）で開催します（午前10時～午後3時30分）。舞踏・合唱・演奏・マジックなど13団体が出演するほか、地域の子供たち5グループを招き、一緒にパフォーマンスを披露します。ロビーでは4団体が作品展示をします。昼食時にはパン類も販売していますので、カレッジの皆さん、地域の方々をお誘いのうえ、ご来場をお待ちしています。

【出演・展示団体】SCハワイアンズ・大正琴プリムラ・新舞踊クラブ・マジッククラブ・混声合唱団コー口KSC・楽遊クラブ銀雅・ボランティアグループわらべ・KSC手話コーラス同好会・おはなし系車・KSCハワイアンフラ・KSC民謡クラブ・一寸奉仕・KSC男声合唱団・俳友会・昔あそび研究会・絵手紙グループ・書道。 地域参加＝ZAP（ダンス・西区）レインボーキッズ&ティンカーベル（コーラス・須磨区）ひよどり台中学吹奏楽部（北区）大槻祐希未（津軽三味線・垂水区）六甲道児童館銭太鼓クラブ（灘区）